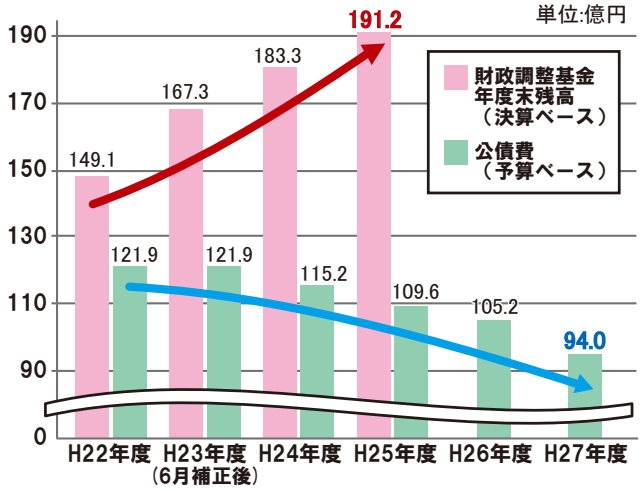
健全な財政を維持します

これらの施策は、健全な財政を維持しながら展開してまいります。

10の市町村が合併したからこそ実現した職員数の２割削減、事務の効率化、スリム化のほか、普通債残高の計画的な削減などにより、**財政調整基金**については、**全国の同規模団体の中でも最大の額となる約191億円**まで積み増しました。また、**公債費**についても起債の抑制により、就任当時、**約122億円であったものを本年度の当初予算では約94億円にまで削減**し、財政の健全化の目安となる実質公債費比率や将来負担比率を格段に改善いたしました。

今後も、この取組によって築いた健全財政を維持しながら、年度間の財源調整のために積み増した財政調整基金については、合併特例事業債の本格的な償還に充てるだけでなく、市民サービスをより充実させるための財源として有効に活用してまいります。



財政調整基金年度末残高・公債費の推移

「もっとできること」の実現に向けて、市役所をあげて取り組みます

これまでの４年間、職員との対話を重ねてきたことで、職員には市民の思い、望み、期待に応えられる力が随分備わってきました。それが形となり、昨年度は、職員自らが、自らの言葉で「ゆるぎないよりどころ」とする職員行動規範を策定しました。そこには市民に寄り添い、市民の思いを形にし続ける職員の意気込みが示されています。例えば、「声なき声にも耳を傾け、市民とともに笑い、悩み、涙する心を持ち続けます」「津市役所の顔、津市の経営を担うプロとしての誇りと自覚を持ち、前例にとらわれず、市民の期待を超えるサービスを提供します」といった、私としても大変頼もしく思う記述があります。この職員行動規範を胸に、それぞれの職員が行動すれば、それが市役所の総力となり、施策を強力に推進できるものと確信しております。

輝かしい津市の未来のために

これらすべては、津市の輝かしい未来へとつなげるものです。そして未来を担うのは子どもたちです。その子どもたちが、将来にわたって夢や希望を持ちつづけることができる、そのようなまちを築き上げていくことが、私達の責任です。子どもたちが学び、人生の糧を得る教育環境の充実は、もっと進めなければなりません。折しも４月１日に地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正が施行されました。

私はこれを受け、県内で先頭を切って、同日に**総合教育会議を設置**し、第１回会議を開催いたしました。総合教育会議は、子どもたちの未来を考える場とし、実質的に機能するものにしてまいります。教育現場の声を私自身が直接聞きながら、市民が求める津市の教育行政となるよう努めてまいります。

また、**平成30年にインターハイ、そして平成33年には国体が三重県で開催**されます。開催に向けた準備を進めることはもとより、これらを見据え、子どもたちのスポーツへの関心を高め、スポーツの裾野を広げます。さらにサオリーナの完成を契機として、多くの市民の皆様にスポーツに親しんでいただくなかで、市民の健康づくりとともに、未来のインターハイ選手や国体選手が生まれてくるようなスポーツの振興を図ってまいります。

そして、これからの４年間は、輝かしい津市の未来に向けた、長期ビジョンを描いていく時期でもあります。**平成30年度からスタートする次期総合計画や次期都市マスタープラン**の検討においては、津市が持続可能な都市として成長し続けていけるよう、「風格のある県都津市」の創造に向けた、津市のグランドデザインを描いてまいります。

これまで築き上げてきた国や県との信頼ある連携をさらに深めながら、より住みやすい地域を目指して、輝かしい未来のため、「もっとできること」を着実に進め、そして皆様からの「津をもっといいまちに」という思いにしっかりと応えられるよう、２期目となる市政に４年間、粉骨砕身、全力で取り組む所存です。